A group of people, including children and adults, are gathered in a large, open, paved square area. Some people are standing in a line, while others are engaged in activities. In the background, there are multi-story residential buildings and a clear blue sky with a few birds. The overall atmosphere is bright and active.

# 集合住宅団地の広場での イベントがコミュニティ形成に 与える効果に関する研究

緑地計画学  
瞿曇優佳

## 研究背景

近年の少子高齢化に伴い、集合住宅団地でもコミュニティが崩壊しつつある

このような社会課題の解決に向けてコミュニティ形成を目的とした団地内広場でのイベントが活発に開催されるようになってきている

## 研究目的

コミュニティ形成を目的としたイベントが活発に開催されている高槻市に位置する富田団地を対象に、集合住宅団地の広場でのイベントがコミュニティ形成に与える効果を探る

## 論文の構成

### 第1章

研究の背景と目的

### 第2章

調査対象団地の概要  
調査対象イベントの概要

### 第3章

居住者に関するアンケート調査

- ・居住環境に対する評価
- ・コミュニティの状況
- ・イベントへの関わり

### 第4章

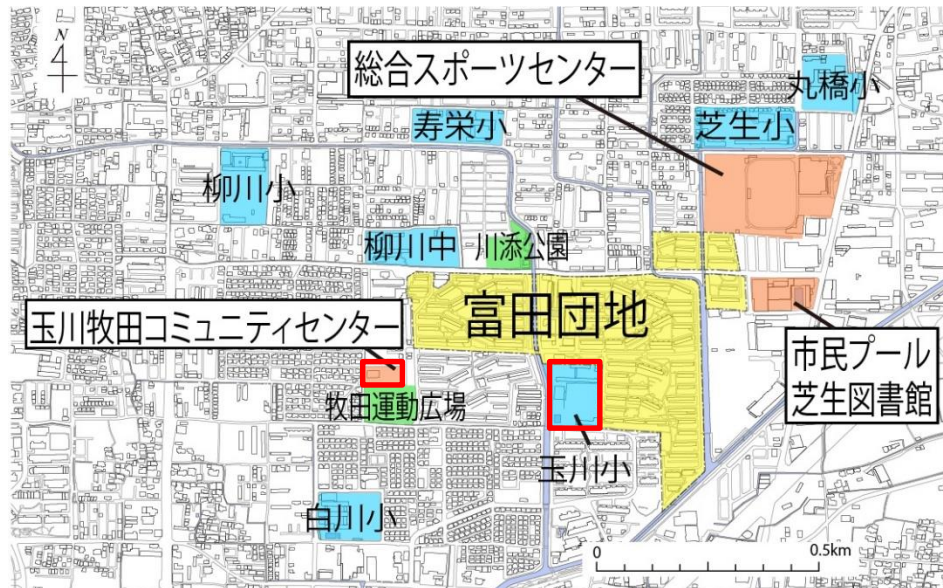
イベントがコミュニティ形成に与える効果

# 調査対象団地(富田団地)の概要

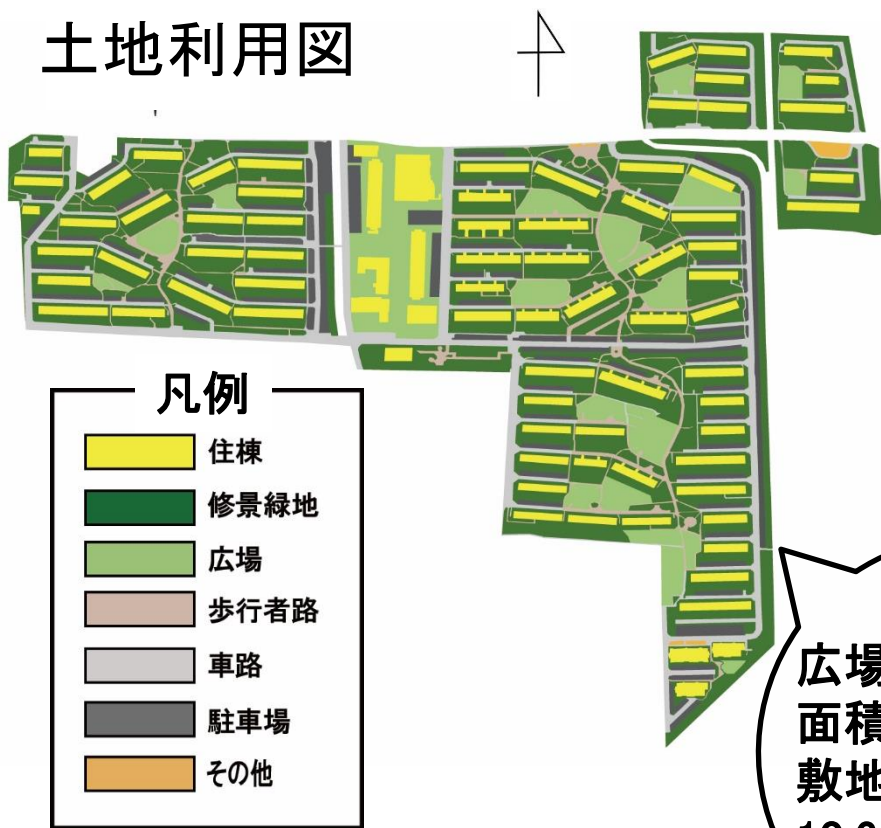
## 諸元

完成年月	敷地面積	住棟数	階数	戸数
1971年3月	29.5ha	103棟	全棟5階	2645戸

## 団地周辺図



## 土地利用図



広場は計18カ所  
面積3.1ha  
敷地面積の  
10.6%を占める

- 凡例**
- 調査対象団地
  - 学校
  - 公園緑地
  - その他

0 0.5km

# 調査対象イベントの概要

イベント名称	開催月	主催者	内容
とんど焼き	1月	富田団地自治会	しめ飾り・書初めなどを焼く
こいのぼり揚げと桜の記念植樹	3月	富田団地自治会	桜の植樹、こいのぼり揚げ
お花見会	4月	富田団地自治会、玉川牧田地区福祉委員会	お花見・焼きそば販売
ポン菓子祭り	4月、11月	わかば子供会	ポン菓子を作り、子供たちが通りかかった人にプレゼントをする
ジャガイモ堀り	6月	玉川牧田コミュニティセンター、玉川牧田地区福祉委員会	コミュニティセンターの畑でとれたじゃがいもを蒸して食べる
七夕かざり	7月	玉川牧田地区福祉委員会	竹笹を立て、子供や通りかかった人が短冊を付ける
夏まつり	7月	富田団地自治会	出店、盆踊り
スイカまつり	9月	玉川牧田コミュニティセンター	コミュニティセンターの畑でとれたスイカを食べる
お月見会	9月	玉川牧田地区福祉委員会	ちょうちん・ススキなどを飾り、お月見をする
焼きいも大会	10月	玉川牧田コミュニティセンター	コミュニティセンターの畑でとれた芋を焼いて食べる
運動会	10月	富田団地自治会	玉川小学校グラウンドで幼児から高齢者まで参加できるプログラムを実施
もちつき大会	12月	富田団地自治会	うすと杵でもちをつき、餅を配布
だいこん炊き	12月	玉川牧田コミュニティセンター	コミュニティセンターの畑に栽培した大根を炊き、食べる

# 調査対象イベント

イベント名称	開催月	主催者	
とんど焼き	1月	富田団地自治会	
こいのぼり揚げと桜の記念植樹	3月	富田団地自治会	
お花見会	4月	富田団地自治会、玉川牧田	
ポン菓子祭り	4月、11月	わかば子供会	
ジャガイモ堀り	6月	玉川牧田コミュニティセンター 玉川牧田地区福祉委員会	
七夕かざり	7月	玉川牧田地区福祉委員会	
夏まつり	7月	富田団地自治会	出店、盆踊り
スイカまつり	9月	玉川牧田コミュニティセンター	コミュニティセンターの畑でとれたスイカを食べる
お月見会	9月	玉川牧田地区福祉委員会	ちょうちん・ススキなどを飾り、お月見をする
焼きいも大会	10月	玉川牧田コミュニティセンター	コミュニティセンターの畑でとれた芋を焼いて食べる
運動会	10月	富田団地自治会	玉川小学校グラウンドで幼児から高齢者まで参加できるプログラムを実施
もちつき大会	12月	富田団地自治会	うすと杵でもちをつき、餅を配布
だいこん炊き	12月	玉川牧田コミュニティセンター	コミュニティセンターの畑に栽培した大根を炊き、食べる



# 調査対象イベントの概要

イベント名称	開催月	主催者	内容
とんど焼き	1月	富田団地自治会	しめ飾り・書初めなどを焼く
こいのぼり揚げと桜の記念植樹	3月	富田団地自治会	桜の植樹、こいのぼり揚げ
お花見会	4月	富田団地自治会、玉川牧田地区福祉委員会	お花見・焼きそば販売
ポン菓子祭り	4月、11月	わかば子供会	ポン菓子を作り、子供たちが通りがけのポン菓子を食べる
ジャガイモ堀り	6月	玉川牧田コミュニティセンター、玉川牧田地区福祉委員会	ジャガイモ堀り
七夕かざり	7月	玉川牧田地区福祉委員会	七夕かざり
夏まつり	7月	富田団地自治会	夏まつり
スイカまつり	9月	玉川牧田コミュニティセンター	スイカまつり
お月見会	9月	玉川牧田地区福祉委員会	お月見会
焼きいも大会	10月	玉川牧田コミュニティセンター	焼きいも大会
運動会	10月	富田団地自治会	運動会
もちつき大会	12月	富田団地自治会	うすと杵でもちをつき、餅を配布
だいこん炊き	12月	玉川牧田コミュニティセンター	コミュニティセンターの畑に栽培した大根を炊き、食べる



出典:富田団地自治会

# アンケート調査方法および解析方法

## 調査方法

- 対象：富田団地居住者
- 実施日：H28/11/6～22
- 有効回答数：388票
- 有効回答率：16.1%

### ○アンケート調査項目

#### ▷居住環境に対する評価

定住意向

団地やまちに対する総合満足度

#### ▷コミュニティの状況

団地・地域内でのつきあいの程度

団地・地域内での理想のつきあい

#### ▷イベントへの関わり

各イベントへの参加状況

イベントへの参加理由

企画や運営への参加意向

企画や運営への参加理由

## 解析方法

### 1. 単純集計



### 2. UR定期調査と比較

UR都市機構が平成22年度に全国のUR賃貸住宅居住者を対象に行った調査（以後、UR調査）と比較考察

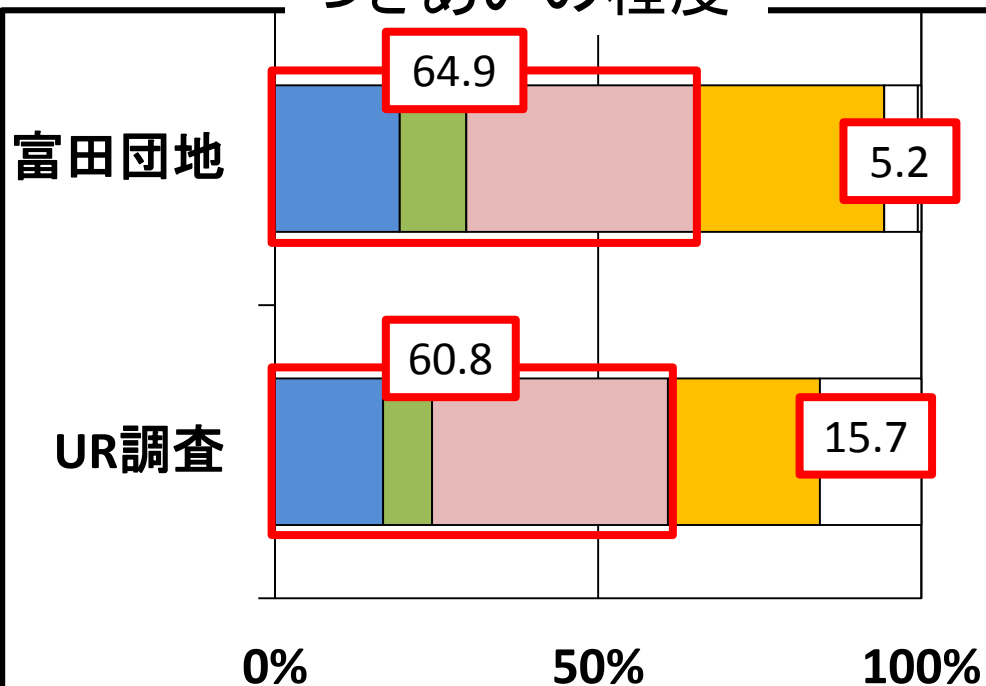


### 3. クロス集計

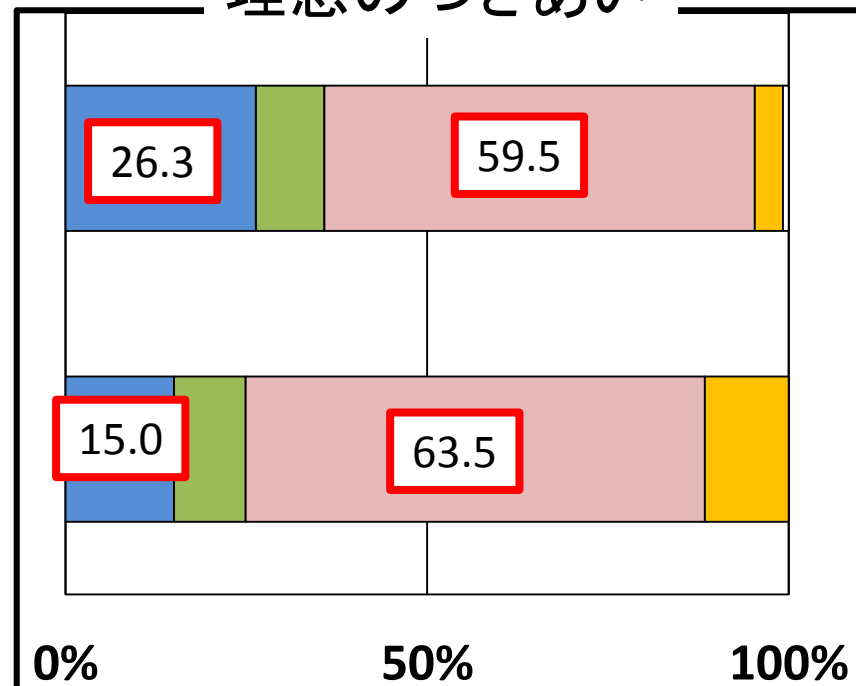
- イベントの参加状況と
- ・居住環境に対する評価
- ・コミュニティの状況
- ・企画運営への参加意向

# コミュニティの状況

## つきあいの程度



## 理想のつきあい



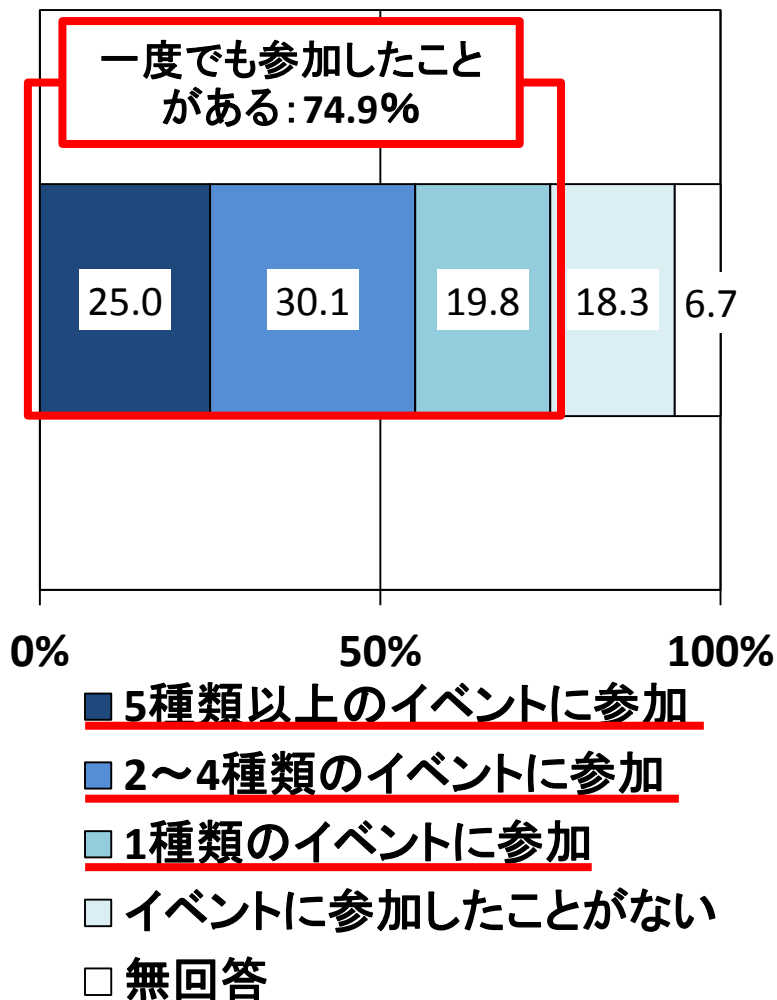
- お互いの家を訪ね合ったりする人がいる
- 一緒に出かけたりする人がいる
- 立ち話をする人がいる
- 会えば挨拶する人がいる
- つきあいはなく、挨拶もほとんどしない

- 日常的に助け合える関係
- ときどき集まって共通の話題についておしゃべりができる関係
- 日頃あいさつする程度でも、いざという時に助け合える関係
- 付き合いは特になくてよい

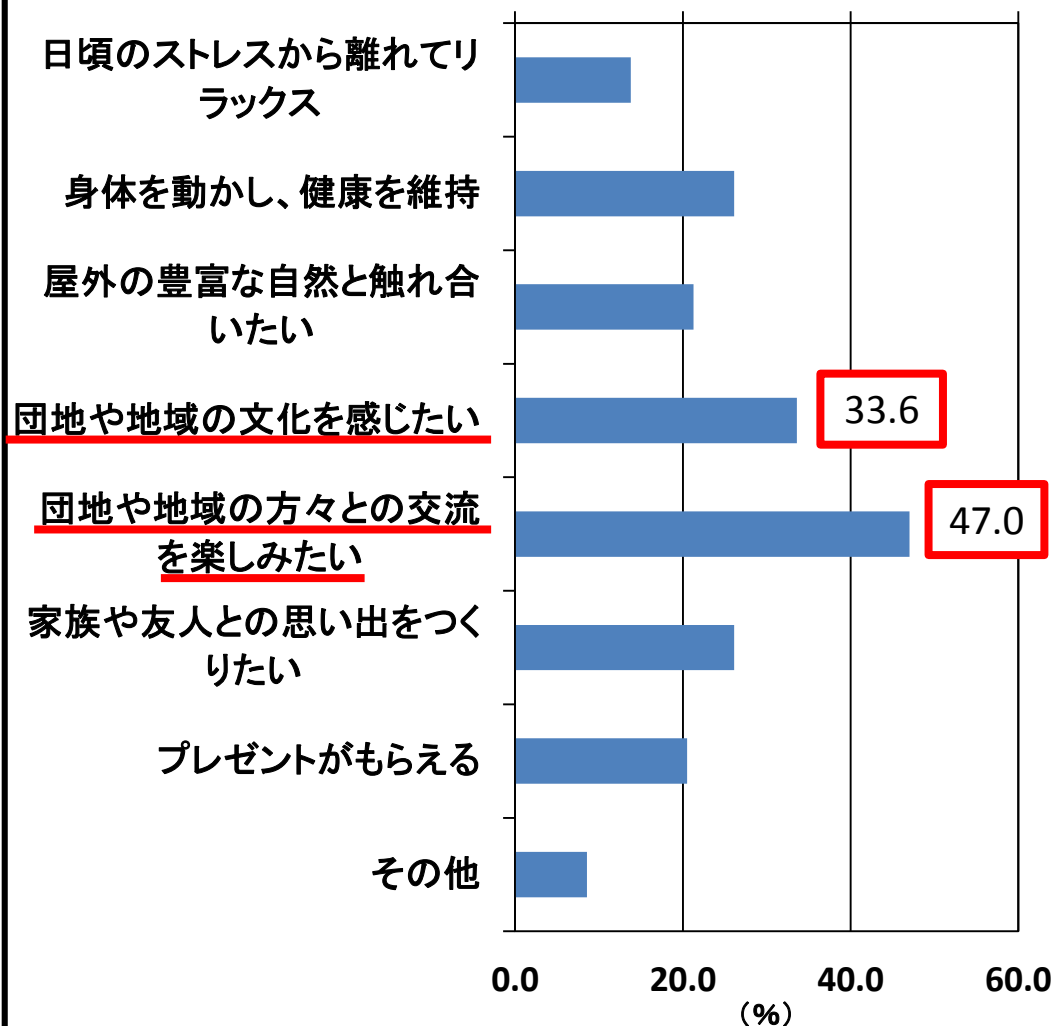


# イベントへの参加状況および参加理由

## イベントへの参加状況

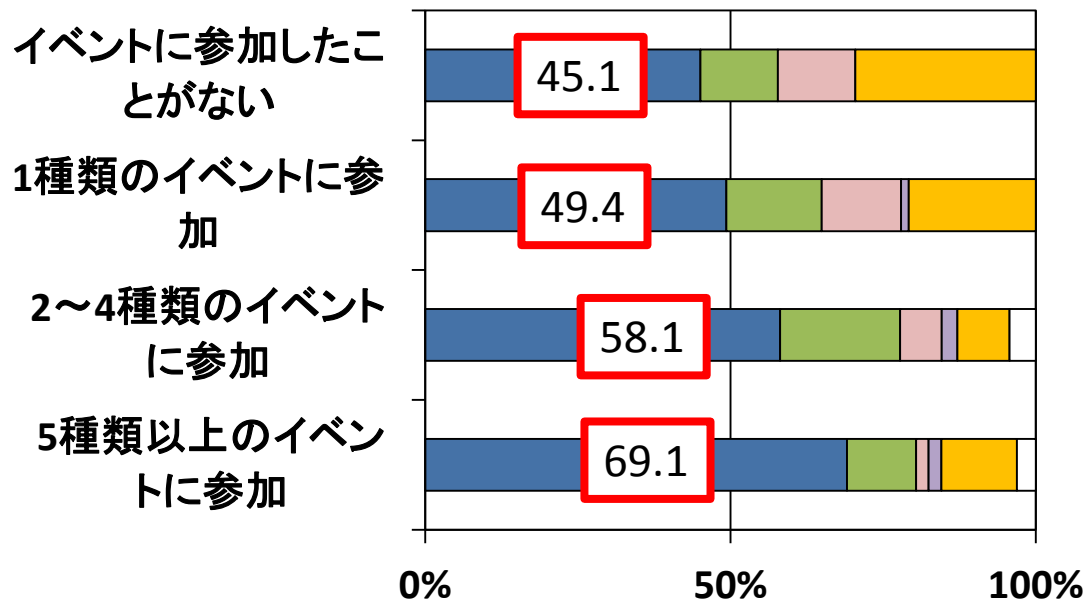


## イベントへの参加理由



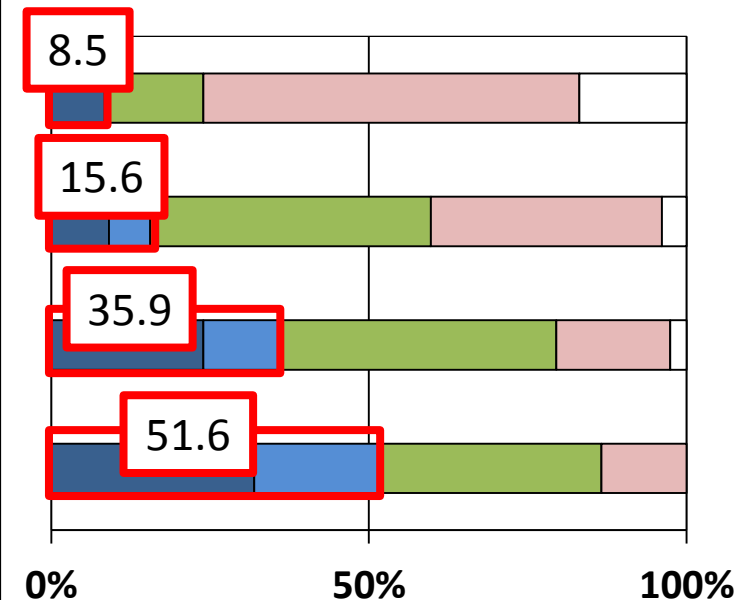
# イベントへの参加状況と定住意向、 つきあいの程度との関係

## イベントへの参加状況と定住意向



- ずっと住みたい、住んでもよい
- いずれは転居したい
- 転居する予定(具体的計画なし)
- 転居する予定(具体的計画あり)
- わからない、考えていない
- 無回答

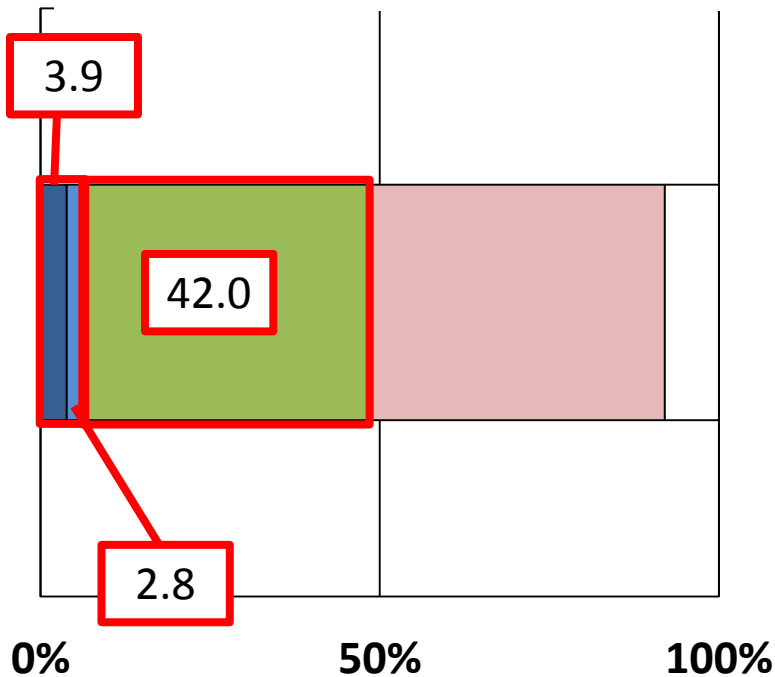
## イベントの参加状況 とつきあいの程度



- お互いの家を訪ねあったりする
- 一緒に出かけたりする
- 立ち話をする
- 会えば挨拶をする
- つきあいはなく、挨拶もほとんどしない

# 企画運営への参加意向およびその理由

## 企画運営への参加意向



■ もうすでに企画や運営に携わっている

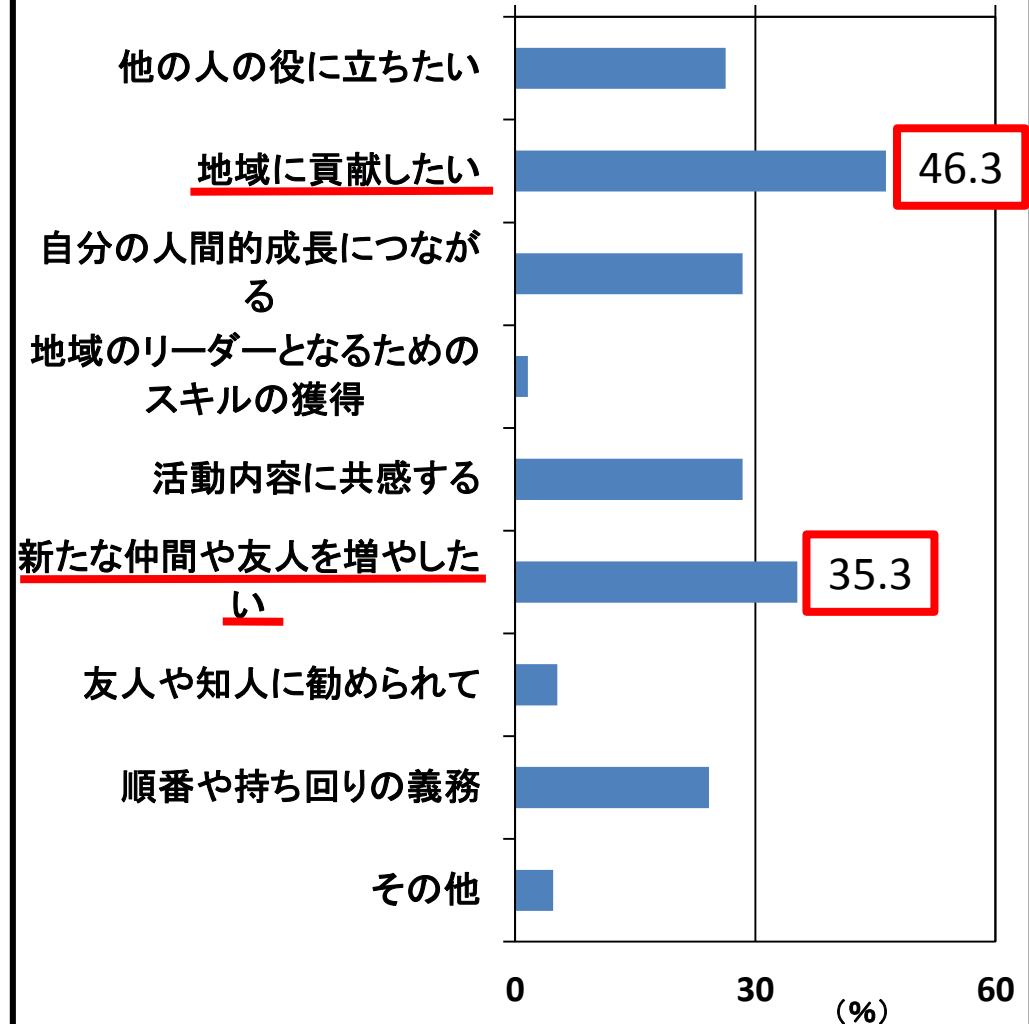
■ 今後、積極的に携わりたいと思う

■ 時間があるときには携わってもいい

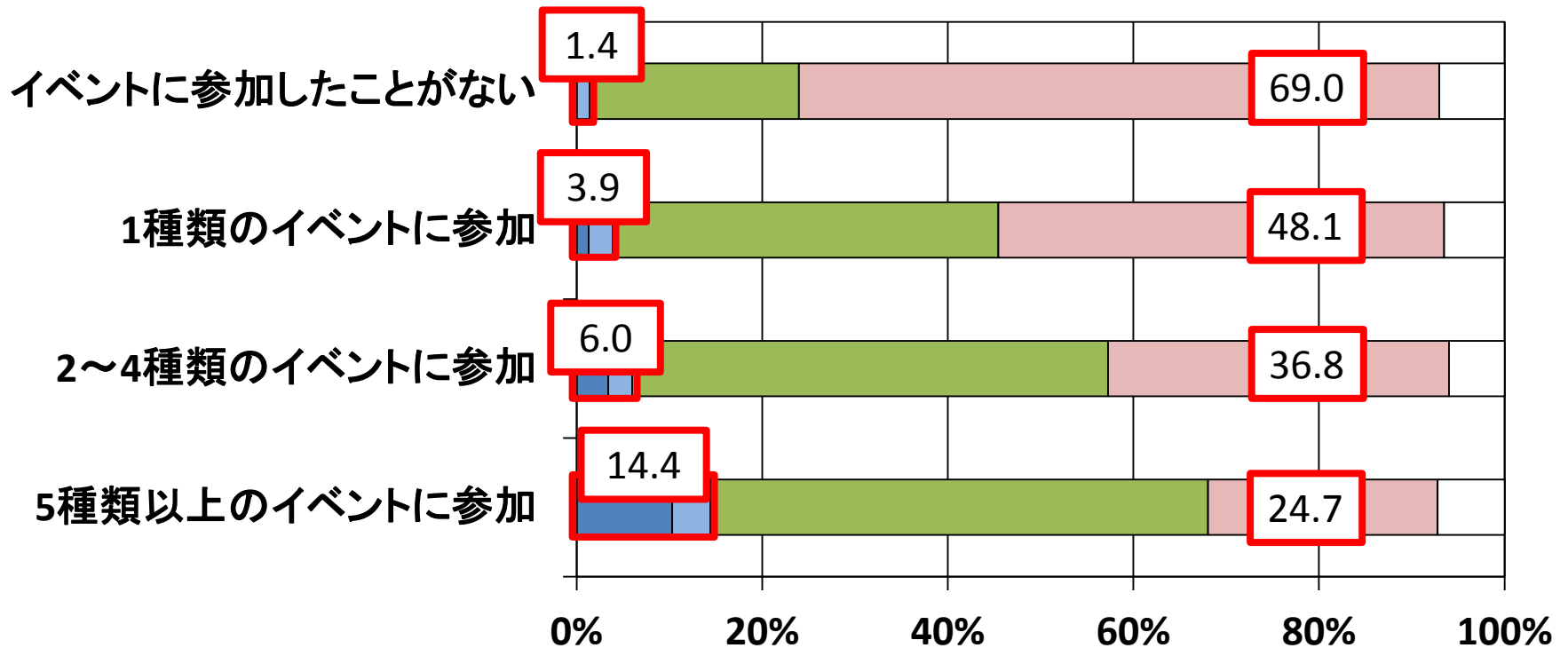
■ 携わりたいとは思わない

□ 無回答

## 企画運営への参加意向の理由



# イベントへの参加状況と 企画運営への参加意向との関係



■ もうすでに企画や運営に携わっている

■ 今後、積極的に携わりたいと思う

■ 時間があるときには携わってもいい

■ 携わりたいとは思わない

□ 無回答

# まとめ

- ・参加したイベントの種類が多くなるほど深いつきあいが形成されるとともに企画運営への積極性も高まっている
- 広場でのイベント開催が親密なコミュニティ形成につながる**
- ・イベントに参加したことのない居住者が2割弱、企画運営に全く携わりたいと思わない居住者が4割強存在しており、まだまだイベントへの参加を促す必要がある
- 夏祭りにみられるような幅広い年齢層が参加できるプログラムや複数日開催などを通じて参加を促し、次世代の担い手を育成していくことが重要**